

大腸がん検診：大腸内視鏡検査 vs 免疫学的便潜血検査

大腸がん検診の完遂率および腺腫発見率は、便潜血検査群に比べて、大腸内視鏡群において高いことが JAMA 誌に掲載されました。大腸内視鏡検査群ではほとんどの対象者が検診を完遂していました。



便潜血検査群では、初回の検査受診率は高いものの、便潜血陰性者の1/3が毎年検査を行わず、便潜血陽性の2/3が精検大腸内視鏡検査を施行していませんでした。



大腸癌は全大腸内視鏡を一度でも施行した場合に大腸癌罹患率のみならず死亡率までも抑制できることが多くの研究で明らかになっています。そこで米国では大腸内視鏡による大腸癌検診を推進した結果、死亡率が順調に低下しているにもかかわらず、日本では便潜血による大腸癌検診の受診率低迷ならびに精密検査受診率の低さから、大腸癌死亡率が低下していない現状が大きな問題となっています。

